

## 試験結果報告書

依頼者名 殿  
品名 液剤 1点  
試験項目 抗ウイルス性試験

2020年10月27日提出の試料に対する試験結果は下記の通りです。

2020年12月4日

一般財団法人 日本繊維製品品質技術センター  
神戸試験センター 中嶋



### 記

#### ○試験内容

液剤の抗ウイルス性を評価する

#### ○試験概要

- ・試験ウイルス：A型インフルエンザウイルス(H3N2)  
A/Hong Kong/8/68;TC adapted ATCC VR-1679
- ・宿主細胞：MDCK細胞（イヌ腎臓由来細胞） ATCC CCL-34
- ・対照サンプル：りん酸緩衝生理食塩水（以下、PBS）
- ・試験サンプル：液剤（①株式会社レドックスの三室ダブルイン型電気分解システムで生成した高機能電解水（pH6.5 塩素濃度 25ppm） 1点
- ・試験条件：作用温度 25℃  
作用時間 1分  
（対照サンプルのみ混合直後も測定）
- ・薬剤不活性化剤：SCDLP 培地
- ・感染価測定法：プラーク測定法

○試験方法

1) ウイルス懸濁液の調製 :

宿主細胞にウイルスを感染させ、EMEM を加え 34°C で所定時間培養後、4°C、1,000×g で 15 分間遠心分離した上清を試験ウイルス懸濁液とする。

2) 宿主細胞検証試験 :

2) - 1 細胞毒性確認試験

1. 試験サンプル 1.9 mL に EMEM 0.1 mL を加え、十分に攪拌する。  
これを試験液とする。
2. 薬剤不活化剤 0.9ml に試験液 0.1ml を添加し、十分に攪拌する。
3. EMEM を用いて、10 倍希釈系列を作製する。
4. プラーク測定法にて各希釈系列の細胞毒性の有無を確認する。

2) - 2 ウイルスへの細胞の感受性確認試験

1. 試験サンプル 1.9 mL に EMEM 0.1 mL を加え、十分に攪拌する。  
これを試験液とする。
2. 薬剤不活化剤 4.5ml に試験液 0.5ml を添加し、十分に攪拌する。
3. EMEM を用いて、10 倍希釈系列を作製する。
4. EMEM を用いて  $4\sim 6\times 10^4$  PFU/mL に調製したウイルス懸濁液を 3. の各希釈系列の 1/100 量添加する。
5. 室温で 10 分間静置する。
6. プラーク測定法にて各希釈系列 1mL 当たりのウイルス感染価を測定し、ウイルスへの細胞の感受性を確認する。

\* 宿主細胞検証試験は、以下の基準を満たすことを判定基準とする。

2) - 1 細胞毒性:無し

2) - 2 ウイルスへの細胞の感受性確認:

$$\lg(\text{PBS のウイルス感染価 (PFU/mL)}) - \lg(\text{Sample のウイルス感染価 (PFU/mL)}) \leq 0.5$$

3) 本試験 :

1. 試験サンプル 1.9 mL に試験ウイルス懸濁液 0.1 mL を加え、十分に攪拌する。
2. 25°C で 1 分間静置する。これを試験液とする。
3. 宿主細胞検証試験で不活化が確認された条件で試験液を不活化する。  
これを反応停止液とする。
4. 上記 3. の反応停止液を  $10^0$  として、EMEM で 10 倍希釈系列を作製し、反応停止液 0.1ml 当たりのウイルス感染価をプラーク測定法にて測定し、試験液 1ml 当たりのウイルス感染価を算出する。

\* この報告書は、提出の試料に対する試験結果であり、ロット全体の品質を保証するものではありません。

\* 本報告書の全部又は一部の無断転用を固くお断りします。

## ○試験結果

## 1) 宿主細胞検証試験

・試験ウイルス：A型インフルエンザウイルス(H3N2)

A/Hong Kong/8/68;TC adapted ATCC VR-1679

・試験ウイルス懸濁液濃度： $6.0 \times 10^4$  PFU/ml

検体	1) - 1 細胞毒性の 有無	1) - 2 ウイルスへの細胞の感受性確認 ウイルス感染価 (PFU/mL) (注2) 常用対数平均値
PBS (Control) (注1)	無	2.80
液剤 (①株式会社レドックスの三室ダブルイン型 電気分解システムで生成した高機能電解水 (pH6.5 塩素濃度 25ppm))	無	2.80

(注1) 対照試料として PBS を用いた。(注2) PFU : plaque forming units

\* 試験サンプル①については、試験液を SCDLP 培地で 10 倍希釈することにより、検体の影響を受けずにウイルス感染価測定ができることを確認した。

## 2) 本試験

・試験ウイルス：A型インフルエンザウイルス(H3N2)

A/Hong Kong/8/68;TC adapted ATCC VR-1679

・試験ウイルス懸濁液濃度： $3.6 \times 10^8$  PFU/ml

試料		ウイルス感染価 (PFU/mL) (注2) 常用対数平均値	Negative control との常用対数值差
PBS (Control) (注1)	液剤混合直後	7.36	
	1分間作用後	7.34	
液剤 (①株式会社レドックスの三室ダブルイン型 電気分解システムで生成した高機能電解水 (pH6.5 塩素濃度 25ppm))	1分間作用後	< 2.00	$\geq 5.3$

以上

\* この報告書は、提出の試料に対する試験結果であり、ロット全体の品質を保証するものではありません。  
\* 本報告書の全部又は一部の無断転用を固くお断りします。